

出島振興ビジョン

出島振興協議会
令和6年3月



はじめに

- 出島振興ビジョンは、「女川町離島振興計画2019」の策定後に、島民や民間事業者、行政が出島振興について話し合ってきた結果を踏まえ、架橋後の出島の将来像を取りまとめたものです。
- ビジョン策定にあたっては、島民懇談会や出島振興協議会の議論、各種アクティビティの調査、各種団体の活動状況を参考にしました。
- 「出島の価値」は、島の魅力に心惹かれた誰もが、島民とのコミュニケーションや、島の魅力を活かした活動のチャンスを得られるような、“来るもの拒まず”の雰囲気にあります。
- この価値を活かして、本ビジョンに基づき、島民や民間事業者、行政が連携して出島の振興に取り組んでいきます。



CONTENTS

1 出島の概要	04
2 出島の現状・課題	05
(1) 出島の現状	05
(2) 出島の課題	07
(3) 課題解決のための具体的な手段	08
3 出島振興の理念「出島のこころ」	09
4 出島振興に向けた取組	10
(1) 生活安全に関する取組	10
(2) 観光振興に関する取組	10
(3) 来訪者受け入れ環境整備に関する取組	10
5 今後の出島振興の展開に向けて	11
6 ロードマップ	13

1 出島の概要

- 出島は、北緯38度27分0秒、東経141度31分30秒、本土から西に約300mの位置にある、外海本土近接型に属する離島です。面積は2.63 k m²、海岸線長は14.7 kmあります。平成23年の東日本大震災の大津波で大きな被害を受けました。人口は69人（令和2年国勢調査）で、出島と寺間の2つの行政区が設定されています。
- 出島および周辺の海域は、平成25年5月に「三陸復興国立公園」に指定されており、自然の恵みと脅威、人と自然との共生により育まれてきた暮らしと文化を有しています。
- 出島周辺は岩礁・外海・内海など変化に富んだ海域となっており、遊漁のフィールド・マリニアクティビティのフィールドとして愛好家から評価を受けています。
- 令和6年12月、離島出島と本土がアーチ橋で結ばれます。出島架橋事業は、出島の産業、生活、教育、医療及び防災に資するだけでなく、女川町全体の活性化に寄与することが期待されます。



出島の位置



出島全景



出島架橋

2 - (1) 出島の現状

出島では、東日本大震災の影響により、急激な人口減少・高齢化がみられます。

人口・世帯数ともに減少傾向にあったところ、東日本大震災により急激に減少しました。現在は、震災後に町外等へ一時移転していた方が、公営住宅への入居や戸建て住宅建築による自立再建により順次戻ってきたと考えられます。

令和5年には、出島振興に取り組むことを目的とした地域おこし協力隊が出島へ着任しました。

① 人口 (単位:人)

地区	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
出島	377	326	263	233	47	37
寺間	381	319	258	232	30	32
合計	758	645	521	465	77	69

② 年代別人口 (単位:人)

地区	20代	30代	40代	50代	60代	70代～	合計
出島	1	0	3	0	12	21	37
寺間	0	0	2	4	9	17	32
合計	1	0	5	4	21	38	69

③ 世帯数 (単位:世帯)

地区	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年
出島	119	119	108	103	25	22
寺間	105	98	91	91	17	19
合計	224	217	199	194	42	41

[出典] 国勢調査

2 - (1) 出島の現状

出島の振興に関心を持つ複数の民間事業者が、出島をフィールドとした活動に着手しています。

- 令和元年9月に女川未来会議で立ち上がったグループ「女川未来会議出島プロジェクト」により、出島を盛り上げる活動が展開されてきました。その後、令和4年12月に（一社）女川未来会議出島プロジェクトとして法人化し、現在も活動を継続しています。
- また令和5年には、出島振興に取り組むことを目的とした地域おこし協力隊が出島へ着任しました。



2 - (2) 出島の課題

現在の出島をめぐる主な課題を整理しました。

- 架橋を契機とした島の振興方策のほか、来島者増加に伴う島民の暮らしへの影響の対策を検討する必要があります。
- 架橋後、離島航路の廃止が予定されており、代替する公共交通の検討が必要となっています。
- 出島振興に関わる民間事業者が連携し、出島全体のPRを進めていく必要があります。



2 - (3) 課題解決のための具体的な手段

島民をはじめ、地域に関わる方が主体となって振興策を考える場として出島振興協議会が発足しました。

令和4年度	「島民懇談会」の開催（全3回）
令和4年12月20日	「出島振興協議会」の発足
令和4年度～	「出島振興協議会」の開催（R6年3月までに全5回）

出島振興協議会

1 協議会の役割

離島振興計画を踏まえた出島振興ビジョンの作成と実践

2 構成メンバー

島民、民間団体

行政区長、出島架橋期成同盟会、漁協出島・寺間支部、女川青年部出島寺間支部、一般社団法人女川町観光協会、一般社団法人女川未来会議出島プロジェクトほか

役場

企画課、産業振興課、建設課、総務課、町民生活課

3 協議事項

- ・ 出島の生活環境の改善に関する事項
- ・ 出島の産業の振興に関する事項
- ・ 島民以外の方との交流の促進に関する事項
- ・ その他出島の振興に必要と認められる事項

4 部会の設置

振興方策の検討にあたり、協議会メンバーから構成される3つの部会を設置し、具体的な議論を行っています。

1. 生活基盤整備検討部会

公共交通、環境対策検討など

2. 観光振興策検討部会

出島魅力体験会の実施、海岸清掃活動、釣りガイドマップの作成検討など

3. 観光施設整備検討部会

トイレ、駐車場、休憩所、案内看板の検討など

3 出島振興の理念「出島のこころ」

出島振興に関する様々な取り組みの礎となる理念を「出島のこころ」として取りまとめました。

出島のこころ

出島は三陸復興国立公園に位置しています。

島民・島を訪れる人・事業者、島に関係する皆が、自然への敬意や感謝の気持ちをもって、出島で守られてきた豊かな環境を、架橋後も保全しながら活かしていきましょう。

1. 国立公園である出島で、次世代の人々が私たちと同じ感動を味わい楽しむことができるよう、自然への敬意や感謝の気持ちを持ち、すぐれた自然環境を守っていきましょう。
2. 出島では、海と山の自然の恵みと命に触れる自然共生型アクティビティ（出島モデル）を推奨しています。島の住民、漁業者、事業者、行政と島の来訪者が協力して、自然共生型アクティビティを展開するための体制づくり、自然共生型アクティビティの普及と啓発に取り組み、アクティビティのフィールドとしての持続可能性を向上させていきましょう。
3. 安全対策・マナーは重要です。命に関わること、人と人の間のマナーは必ず守りましょう。

4 出島振興に向けた取組

方針と施策について出島振興協議会で議論し、次のとおり決めました。

(1) 生活安全に関する取組

- ・ 離島航路に代わる代替交通の検討
- ・ 漁業施設の安全対策としての漁業施設等監視用防犯カメラの設置検討
- ・ ゴミのポイ捨て等の注意看板の設置 など

(2) 観光振興に関する取組

- ・ 豊かな自然環境を活かしたアクティビティ事業の展開
- ・ 星空観測スポットの整備検討
- ・ 海岸漂着物の撤去活動の継続
- ・ ガイドマップの作成・周知 など

(3) 来訪者受け入れ環境整備に関する取組

- ・ 来島者向け拠点など(案内サイン、トイレ)の整備検討
(国等の補助事業の活用や整備後の効果的な運用)



5 今後の出島振興の展開に向けて

出島振興の今後の展開イメージを取りまとめました。

出島振興に取り組む関係主体の役割分担

- 島民：“来るもの拒まず”のスタンスで島のルールを教える
- 民間：補助金に依存しない自主的な取り組み
- 行政：活動人口の創出



展開イメージ

◆既に着手・試行している取組
※取組のアイデア

5 今後の出島振興の展開に向けて

参考として、出島振興の推進に向けた環境保全協力金制度の導入イメージを整理しました。

協力金とは 法・条例の定めによらずに自治体・観光協会・協議会等が設定する自主財源。
国立公園区域において「環境保全協力金」を設定し、自然環境の保全や来訪者受け入れ環境の整備に用いる例が多い。

「出島環境保全協力金」制度 案

目的

出島のこころに基づく出島振興及び環境保全活動に役立てるため
トイレ清掃、浄化槽管理、番屋の利用管理、清掃、海岸漂着物の撤去、
ごみ処理等

財源の位置づけ

民間主体で維持管理・運営を行うための財源として「協力金制度」を
導入する

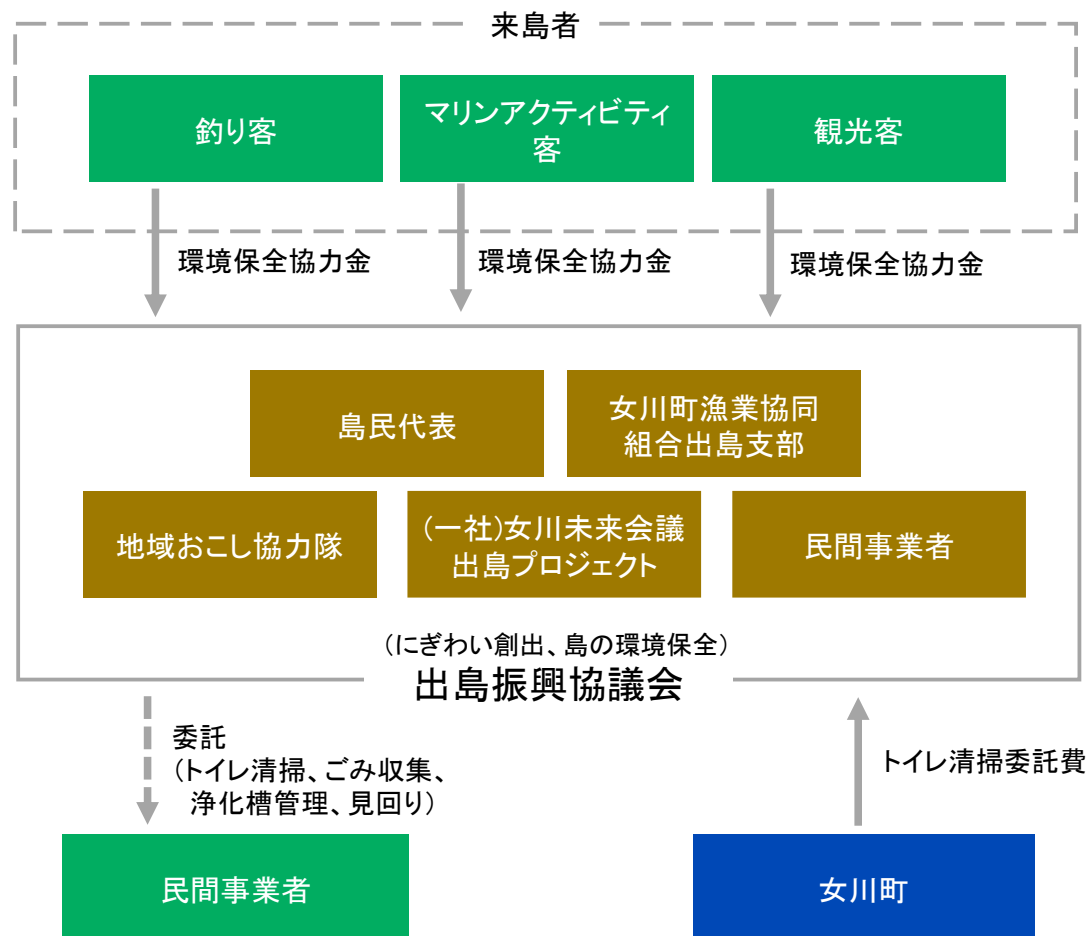
收受方法

二次元コードを設置
(キャッシュレス決済不可の人のために集金箱を併設)

協力金制度の周知方法

- 情報：協力金を收受する「目的」「金額」「收受場所」等
方法：①webサイト（女川町、観光協会、民宿いずしま）への情報掲載
②出島内への案内サイン設置
③女川遊漁船組合の事業者による周知

出島環境保全協力金 スキーム案



6 ロードマップ

出島振興を推進するため、
公民連携により、各種の取組を具体化していきます。

